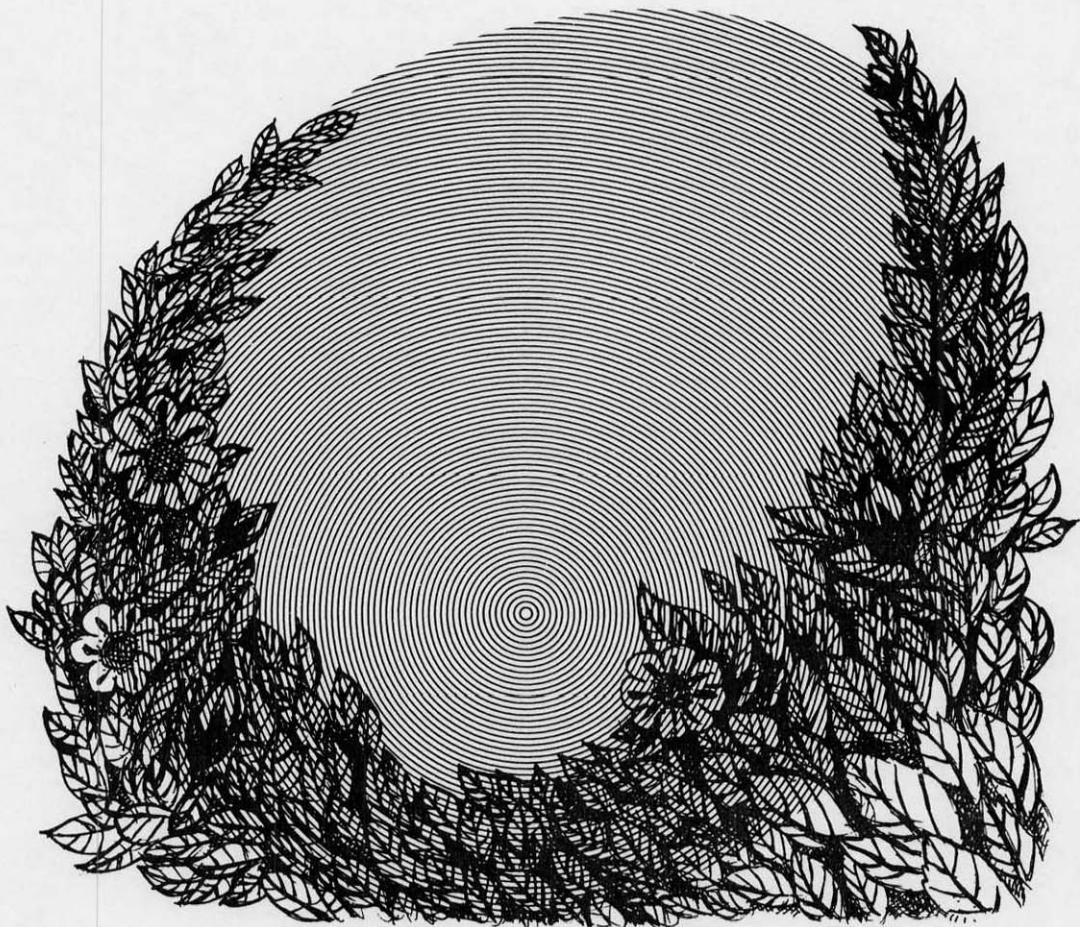


月報岡崎の教育

61年度 No.155～166



岡崎市教育委員会

月報

岡崎の教育



4月号

昭和61年4月1日

編集 / 発行

岡崎市教育委員会

さくらの下で心もはずむ

<スタート>

やつとありつけた
「おいしーい！」
目が丸くなる
「おいしーい！」
保育園よりおいしーい
「先生、早く字教えてよ」
「先生、そうじつておもしろいね」
「先生、かけっこしよう」

ピカピカの一年生
朝から箸を取り出す
「先生、給食まだあ？」
もうマスクを着けている



(桜並木をヨーイドン — 本宿小)

現在我が国は、単に経済分野のみならず、医療・教育と言つた社会の多くの分野、更には、家庭までをも巻き込んだ形で情報化が進行しつつある。

これからも我が国は社会、経済が活力を持ち続けて行く上において、また、より多くの人たちが一層便利な生活を送ることができるようになるために、情報化

ような分野の情報化については、十分に留意しながら、進めることが必要であるように思う。

教育分野における情報化の進展は、たとえば、健康上の理由で通学できない児童に対し、将来家庭にいるままで、より充実した学習を可能にするというメリットをもたらすかもしれない。しかし、技

のとき、新しい担任としてK先生がこられた。今から考へると師範学校を卒業されて間もない頃ではなかつたかと思うが子供心にも大変落ち着いた、また、明るく抱擁力のある先生であった。K先生は六年男子組の中でも最も「ワル」が多く評判の良くなかった我々のクラスを一年間本当に分け隔てなく、温かく見守り、

指導して下さった。我々の余りの悪さに減多に怒らず、にこにこされている先生が、時に厳しい顔をされれば我々は皆小さくなり、時に悲しそうな顔をされれば皆それなりに後悔の念でうなだれたものである。また、私の記憶では、先生が我々に手を上げたことはなかつたように思う。

戦後世の中も落ち着き、四散していた同級生も次第に集まり、年に何回かK先生をお招きしてクラス会を開くようになった。皆の話を総合すると、当時最も出来が悪く、だらしがないと言われた我がクラスが今や最もまとまりがよく、手がつけられないような人間も出ていないようであり、反面、当時かなり厳しく管理され、概してお行儀もよく評判の良かつた他のクラスに色々と問題が出ているようである。

K先生も、残念ながらこのように懐いてしまった。したがつて、今や先生をかこむことはできなくなつてしまつたが、我々の頃は昔から麻疹がはやります。今皆は麻疹にかかつたようになります。心の成長期を経て成長していくのです。君達と筆者の主張を読み取っていきましょう。

麦秋といい、思春期といい、心の成長期を経て成長していくのです。君達と筆者の主張を読み取っていきましょう。

この第一声は、生徒の心にしつとり溶け込んで、展開を生きさせた。

志賀 學

— 教育隨想 —

K先生のこと



の推進は大変重要なことであると思う。ただしの場合、情報化のメリットと共にデメリットを考慮しながら進めて行くことが必要であろう。情報化には人間と人間との触れ合いを人間と端末機器との関係に置き替えるという側面があると言える。したがつて、人間と人間との触れ合いが特に重要な意味を持つている

術的に可能であるからと言つて、全ての児童を在宅のまま端末機器によって教育するなどというようなことは論外である。このように懐しいK先生も、残念なことの推進は大変重要なことであると思う。

学校教育においては、やはり立派な先生と直接的な温もりのある触れ合いが生徒の人格形成の上において重要な意義を持つと思うからである。

私が小学校六年(当時は国民学校六年)

第一声の工夫を

前国語科指導員 澤 博史



起立、礼。子供の目が一齊に先生に注がれる。先生が何と言うか、全ての目と耳が一挙一動に注目している。一時間の授業の導入、しかもその第一声の一瞬である。「一時間の講演も初めの三分で勝負がつく」と思ふ。局谷正造氏の言である。授業で最も工夫がいるのに、最も工夫がないのが第一声だと言える。特に文学教材では、物語や詩の世界へ誘い、じっくりと読み浸らせなければならない。

T中一年「まねっこ」の第一声である。「今は麦の穂の熟れる頃ですね。麦秋の頃は昔から麻疹がはやります。今皆は麻疹にかかつたようになります。心の成長期にかかるつています。皆の心もいろいろな時期を経て成長していくのです。君達と筆者の主張を読み取っていきましょう。麦秋といい、思春期といい、心の成長期を経て成長していくのです。君達と筆者の主張を読み取っていきましょう。この第一声は、生徒の心にしつとり溶け込んで、展開を生きさせた。

ふるさとシリーズ

—この人に聞く—



交通指導員

多々内誠治 氏

真新しいランドセルに朝の光を浴びて新一年生が元気に登校している。

多々内さんが「小さな命を交通事故から守ろう」と交通指導の奉仕活動を始めたのは、昭和三十一年のことである。

「当時は、信号機が市内に二か所しかない時代でした。三島小に通う二十名ほどの子どもたちが国道を渡っているのを見た大変危険だと思いましたね。」

以来三十年間、雨の日も風の日も休むことなく続けられた。昭和三十四年には交通安全協会が母体となって岡崎地区交通指導員連絡会議が発足し、多々内さんは初代議長として質量ともに全国一の組

織へと導かれた。

「私たちがやっていることで子どもたちは少しづつ交通安全に目を開いてくれる。新鮮味を与える。第一声から勝負だと切決して無駄ではないと思っています。」

昨年、長年の地道な活動が高く評価され、交通栄養章緑十字銀章を受賞された。

「私どもは制服を着ていても警察官ではありません。言語正しく、親切な態度、地域住民に愛される交通指導員を常に心がけるように努力しています。」

立派な賞状を手に語られる多々内さんの目は、小さな命を守り続けてきた自信と誇りで輝いて見えた。

「長い間にはいろいろと嫌なこともありますよ。大人の中には私どものしていることは報酬をもらってやっているんじやないかって言う人もいましたね。」

こうしたご苦労にも拘らず、今もなお児童生徒への交通指導のほか、PTAに対する交通教室、老人宅への家庭訪問等献身的な活動を続けられている。

「最近の子どもたちは中学にあがると急にあいつをしなくなりますね。できるだけの方から言葉をかけるようにはしているんですが……。指導員というのは決して交通指導だけしていればいいとは思いません。いつも子どもを愛する心を持ち、社会の一員として子どもたちを育てるという気持ちを持たねばなりません。」

多々内さんは、さらに家庭教育の重要性を力説された。

「このごろの交通事故の多くは事故者の家庭環境に大変関係しているんですよ。」



原案の提案は具体的に

特別活動指導員

金子一元

小学校四年生、学級会話話し合い活動。主題は「みんなで助け合つて、ミニ・オリンピック大会を楽しくやろう」。計画

班が原案を発表していく。「二人六脚」「横ばい」「上向き四つんばい」「やり投げ」等、屋内で行うという制約を受け

ての数々の競技種目を、実演を通して提案していく。教室の子供たちの視線が一斉に演技に注がれる。彼らの目が光る。

時には、滑稽な姿に笑いも起こる。
「横ばいは、危くないし、楽しそうだ
が交通ルールを守る気にならないと子どもも守りませんよ。交通安全という四文字は家庭内円満を築く基礎だと思います。」

いつの頃からか、多々内さんは「人間信号機」と呼ばれていたそうだ。信号機設置のために奔走された方にふさわしい愛称ではないだろうか。

「この仕事はスタートがあつてもゴール

インはないと思っています。ゴールイン

をどこかで作りたいのですが、長い道のりだと思います。すべての大人が子どもたちの命を守ろうという大きな気持ちに

なった時にできることでしょう。」

(住 所 / 岡崎市栄町四丁目六八の五)

生年月日 / 大正十三年三月一日

教師は、時には役者となり演技することも大切である。第一声の工夫が授業に新鮮味を与える。第一声から勝負だと切り込む工夫と情熱がほしいものである。

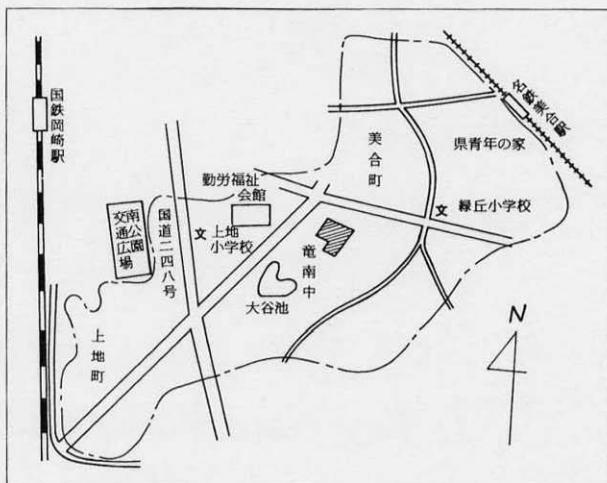
実演を通した具体的な提案が、その後の話し合いをいかに生き生きとしたものにするか、私は彼らに目を見張った。



竜南中学校誕生

二十学級・生徒数八百有余名の竜南中学校が誕生した。公立の十六番目の中学校である。かつて雑木林であったこの地は、区画整理事業の後、急激に市街化が進み、今では一大住宅地として発展している。

学校は、緑丘小と上地小のほぼ中間にある。校舎中央のかまぼこ型の屋根と、左右に連なる軒端の波状が窓の直線と調和して美しい。玄関前の観察池をはじめ、各所に近代的な構築と教育的工夫がみられる。体育館は、クラブ室のほかに集会室まで備えた三階建てである。運動場南にはテニスコートが五面も整えられ、この六月にはプールも完成する。行き交う生徒にも清新な活力が漂っている。



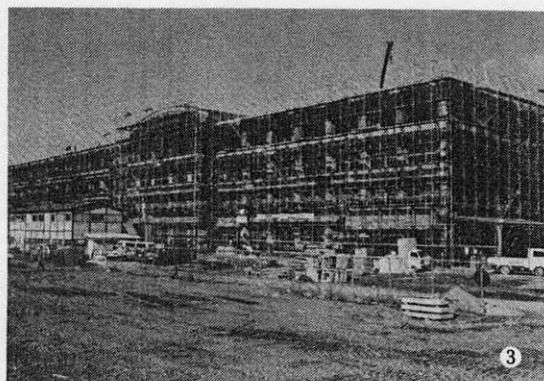
②



①



④



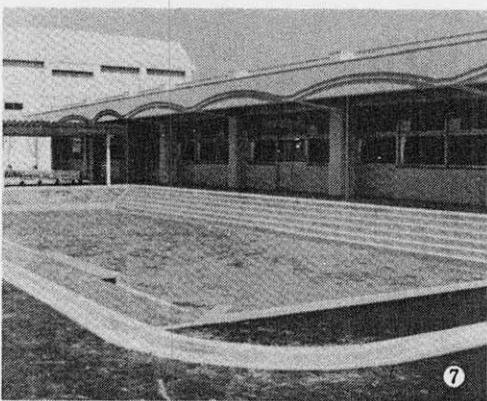
③



⑥

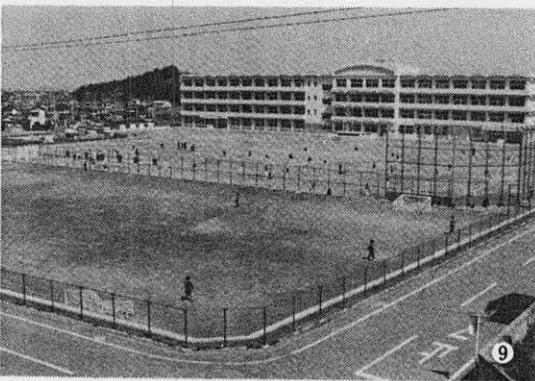


⑤



⑦

- ① 工事の安全を願つての起工式。
(昨年五月三十一日)
- ② 基礎工事のコンクリート打ち。
- ③ 校舎も全容を現わした。屋上工事も開始。
- ④ 四月四日、入学式当日の一年生の受け付け風景。
- ⑤ 喜びに満ちた開校式での中根市長さんの挨拶。
- ⑥ 市内の他の中学校にはない雨水利用の観察池。
- ⑦ 円型の模様の入った金工室、木工室と屋外作業場。
- ⑧ 柔・剣道場も備えた広い屋内運動場。
- ⑨ テニスコートが五面も取れる広々とした運動場。



⑨



⑧

心の中に

福岡小 板倉 敏之

六年生へ進級するA子。二年前のA子を思うと想像もつかない。

ゲームやバドミントンも行つた。しかし、生活態度の変化はなく感情も表には出さなかつた。朝夕の家庭訪問も形式化されつつあつた。

そんな時、宿題として出した詩の中に、こんな作品があつた。

A子は次第に人気の無い教室へせるような受け皿を私の心中に持たなくては……その後、A子は次第に人気の無い教室へ姿を見せるようになった。

五年の三学期、卒業生を送る会の寸劇に立候補して、練習に励んでいた。

Tはリーダー的活動の中で一人を排除しては集団の力が弱まることを知り、「みんなのための自分」を主張するようにならなければならないと考えた。

Yはリーダー的活動の中で

A子は三年の三学期から登校拒否になり、四年生から私が受け持つた。絶対にA子を登校させようと決意し、第一にお互いをよく知ることなどの考え方から朝と夕方の家庭訪問を開始した。

最初は朝の挨拶もためらつていたA子も、小さな声ながら、「おはようございます。」

が言えるようになつてきた。夕方ではA子の部屋に上がり込み、学校での出来事を話したり、家の様子を尋ねて話題にした。

私は、自分自身を変えることで周囲の目を変えていく強い生徒を望んだ。何か言われたらすぐ自分の殻に閉じこもつてしまふのでなく、泣きつくのでもなくこれはきびしいようだけれども、いじめにかかる子ども共通する、強い甘えやわがまま、自己中心性を克服すること

Tは生活ノートに次のように書いてきた。

「今は前ほど言われません。もう一年生が終わるとと思うと、何かたるいです。先生がスクラムに書いて下さったことを忘れず二年生でもがんばつていこうとお母さんと話し合いました。」

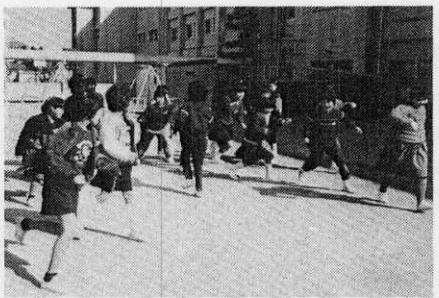
山下清のてんらん会に行つた。ちえおくれの人だといえけれど、わたしにはまねできないくらいの絵だ。

花火が大好きで、四十九才でなくなつたけど、「今年はどうこの花火見物にいこうかな。」

というのがさいごの言葉だつた。

人はだれでもかくれた才のうがあるというけど、わたしには何の才のうがあるのかな。

Tはいつも一人でおどおどしていた。声も小さく、目はきよろきよろとしているので、不安な気持ちを見てはいるだけですが、A子を見ていた。何事も学校・を休むに結びつけ、頭の中は登校させることばかり考えていた。



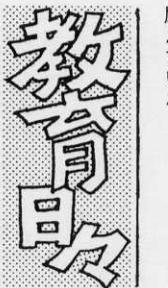
この詩を受け取った時、自分が過ちに気づいた。いや、気づかされたというべきか。私は「学校に来ない」という一面だけでA子を見ていた。何事も学校・を休むに結びつけ、頭の中は登校させることばかり考えていた。

城北中 中井三佐子

みんなの中の自分

Tは生活ノートに次のように書いてきた。

「今は前ほど言われません。もう一年生が終わるとと思うと、何かたるいです。先生がスクラムに書いて下さったことを忘れず二年生でもがんばつていこうとお母さんと話し合いました。」



せらしお



【寄贈刊行物・資料等】

◆桑雨居雑記 鈴村正弘

△六名小II奥 由紀子・伊藤壽美 △竜美丘小II伊藤明美・

文集「おいだいの子」 生平小 B5 九四ページ

◆道德的実践力を育てる道徳の授業 六名小

B6 三六四ページ

◆到達度評価基準・通知票評価基準 男川小

B4 七三ページ

◆小中学校図書館の現況 現職教育図書館部

B5 一八八ページ 山中小

◆昭和六十一年度県教育委員会 表彰式は、五月十一日大阪で開催される第三十七回全国植樹祭の席上で、文部大臣賞、NHK会長賞などを受ける。

いっぱいの立派な学校に成長した。

北野小学校・矢作北中学校

○十月十六日(木) 緑丘小学校・竜海中学校

○十一月二十日(木) 愛宕小学校・六名小学校

○十一月二十七日(木) 常磐東小学校・秦梨小学校

○十月…… 城南小学校

○六月…… 城北中学校

○十月…… 羽根小学校

○十一月…… 竜美丘小学校

○十一月 美川中学校

◆期待の新任教員 一〇二名 昭和六十一年度岡崎市小中学校新規採用教員は一〇二名(小学校六〇名、中学校四二名)である。

期待される新任のみなさんは次の通り。

◆昭和六十一年度市教育委員会 学校訪問

○五月二十二日(木) 山中小学校・本宿小学校

○六月十九日(木) 六ツ美中部小学校・六ツ美

木におおわれた、緑いっぱいの樹

百三種類・一万二千本余りの樹

木に生い茂る、緑いっぱいの樹

木に生い茂る、緑いっぱいの樹

木に生い茂る、緑いっぱいの樹

もないので校地であった。

そこで、「緑いっぱい夢いっ

ぱい」をテーマに子どもたち自身の手で緑を育て、広げようと全校あげてのさし木活動を進めた。

こうした努力の結果、今では

常磐小学校は、十年前に現在

学校が「日本一」の特選校に選

ばれた。本市では十六校目の快

挙である。

常磐小学校は、十年前に現在

地へ移転をしたが、当時は岩山

をけずった造成地で樹木は一本

もない校地であった。

美北部小II杉浦加佳子・武藤桂

子▽六ツ美南部小II田中善加

▽梅園小II名倉以知野・小島

寛史▽根石小II星野雄太▽

・佐野みち子・森上葉子▽城

南小II高橋啓一▽上地小II河

合友子▽小豆坂小II中野渡

善樹▽北野小II森下幸代

◆視聴覚ライブリーライブ

城へ移転

市役所八階にあった視聴覚ラ

イブリリーが、この四月一日よ

り太陽の城へ移転した。電

話番号は25-3300番。休日

は、今まで通り、日曜日、祝日

土曜日の午後。十六ミリ映画・

ビデオ教材など、ご利用下さい。

○十月 九日(木)

中学校

六ツ美中部小学校・六ツ美

大橋伸也▽岡崎小II柴田和美

羽根小II柳沼千鶴・小田泰史・

子・高木理人・熊谷香・美

川中II深津利博▽南中II近藤文彦・平松佐和子・夏目由紀子▽竜海中II手嶋秀臣・志賀昌代・都築康一・壁谷隆臣▽葵中II石原正道・坂部浩幸・大須賀一美・石原真吾▽城北中II天野孝志・小野章子▽福岡中II鈴木隆太郎▽東海中II清水佐知子・日置貴子▽常磐中II鶴田由美・倉地美穂▽岩津中II鶴田秀幸・飲田隆司・太田ひと美・小田哲也▽矢作中II細井太郎・上野喜一郎・横山清文・鳥居是典▽六ツ美中II岩城冬子・菱田之人▽矢作北中II保田真美・早川哲也・小林宏彰・宮地ゆかり▽新香山中II谷川まり・赤崎類子・堀部昭夫▽竜南中II飯見智子・木河淳治以上、小学校男子二五名、女子三五名。中学校男子二四名、女子一八名。

